

「未知との交流」(足達)

苦手でした。未就学のときに池田の親戚の家の近所で追いかけてまわされ、小学生の時は下校時に半野生化したような3匹の集団と傘で戦い。中学の時は脱走した大型マスタフ系の猛者と自転車競争する羽目になったり。一応噛まれることなくやり過ごしてはきました。そうです。お犬さんです。そんな私に先日転機が訪れました。後から聞くとそのご近所の方も初めて犬を飼われたとのことで不慣れだったようですが、夜歩いて帰宅していますと避けては家に帰れない歩道で1匹、綺麗におすわりの姿勢でたたずんでいます。目標は「ただやり過ごす」です。なるべく刺激を与えないよう、それまでと同じテンポ、歩幅で歩きました。視線はわざと遠くを見るようにしつつ、その距離が最小に縮まったところで耳を澄ますと相手の口で呼吸する音が聞こえます。私はそのまま歩き続けたので、距離が離れていくはずですが、その音は先ほどと同じように聞こえます。そうです。私の後をつけてきています。見ると明らかに子犬です。このままついてきたら大きな問題になると思い、先ほどのおすわり地点まで引き返します。子犬もきっちりついてきました。そんなところで買主登場です。不審者と思われるので嫌ですのでこちらから事情を説明しその別れ際、その子犬が去っていく私にずっとやさしく吠えてきています。なんか可愛いじゃないですか。そんな交流がありました。ちなみに5月31日からプロ野球はセパの交流戦が始まっています。



今さら聞けない 経済用語

【今月の教えてキーワード：フィンテック】

IT技術を使った新しい金融サービスのこと。金融（Finance）と技術（Technology）を組み合わせた造語。アメリカでリーマン・ショックを機にベンチャー企業が新しいサービスを生み出したのがきっかけとなった。スマートフォンを使ったモバイル決済、家計簿のクラウド化サービス、人工知能を使った資産運用、複数枚のクレジットカードやキャッシュカードを1枚に統合できる電子カードなど日本でも関心が高まってきている。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【信仰に生きたキリシタン大名：大友宗麟】

最盛期には九州6カ国を治めた大友宗麟(そうりん)は1530年、義鎮(よししげ)として豊後・府内(大分県大分市)に生まれました。父は肥後の有力大名・大友義鑑(よしあき)。長男として早くから跡継ぎと期待されますが、いつしか異母弟に家督を継がせたいと考える父の思惑に翻弄されながらも20歳で大友家の当主となります。その頃、キリスト教布教のために豊後を訪れていたフランシスコ・ザビエルに出会い、キリスト教に傾倒します。その後、実弟がライバルである大内家の家督を相続したり、毛利元就が九州に侵攻したりと自身の領国支配に自信を失います。キリスト教を嫌う妻との不仲にも悩み体調を崩しますが、32歳の時に心機一転を図って大徳寺の禅僧のもとで出家します。「宗麟」も出家を機に名乗るようになった名前前で、宗麟の保護下で布教にいそんでいたイエズス会の宣教師たちは一様に困惑したといえます。時を経て46歳、息子に家督を譲るとキリスト教嫌いの妻とも離婚して、ついにキリスト教の洗礼を受けます。洗礼名は、崇敬するザビエルの名をもらい「ドン・フランシスコ」としました。宗麟は住民全員がキリシタンという理想郷の建設を夢見るものの、その夢は叶わず57歳で死去。程なくして豊臣秀吉はキリシタン信仰を禁じ、日本のキリスト教は300年以上に渡る暗黒時代に突入したのです。

今を生きる
先人の言葉

後悔せず
我が事において

剣豪として知られる宮本武蔵の言葉。一度の失敗で臆病になるのではなく、それを良い教訓として明日の成功の糧とする。反省は必要だが、後悔はしないことだ。

トレンドを斬る!

「大人のアイス」がコンビニスイーツ界をにぎわせています。宇治抹茶やイチゴ果肉、ビターチョコなど厳選した食材を使い

おいしさを追求したリッチなアイスは、子どものおやつというよりまさに大人の食後のデザート。価格は少々割高ですが、プチゼいたく気分を味わえると好評です。子どもの頃からアイスの味を知っている団塊の世代もブームを後押しし、量より質のプレミアムアイスは品薄状態の店が多いとか。「ちょっと特別」がシニアの心をくすぐるのでしょうか。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【真のリーダーの姿とは?】

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」と言ったのは山本五十六元帥でした。「真のリーダーとは?」を論じるときによく引用される有名なこの言葉は、「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」と続きます。



また孔子が論語で述べた「能(よ)く五つの者を天下に行なうを仁と為す。恭(きょう)寛(かん)信(しん)敏(びん)恵(けい)なり」も、リーダーの心得として時代を越えた教えとなっています。

「恭」とは部下(相手)に対して敬意を持って接すること。丁寧で慎み深く振る舞えば、あなどられることはありません。「寛」とは部下(相手)に対して心広く寛大に対応すること。懐(ふところ)の広い人は慕われます。「信」とは発言と行動を一致させて信頼を得ること。言行一致は信頼関係のベースです。「敏」とは仕事が的確で迅速であること。すなわち実力が身に付いていることです。「恵」とは思いやりを持って人に接すること。部下や同僚、取引先といった周囲の人々に対して深い思いやりを示すと、そこに協調と自覚が生まれます。

各自が自分のやるべきことを自覚したとき、マンパワーは最高の形となって結果を導くでしょう。「リーダー」の定義に正解はありません。際だったカリスマ性で人々を魅了し、自分が輝くことでヒーロー的存在となって組織を統率するタイプのリーダーもいれば、陰の立て役者として人を輝かせることで求心力を発揮するタイプのリーダーもいます。どんなタイプのリーダーであれ、まずは自分が行動し、先に与えて、尊重し、信頼して見守る姿勢が不可欠ではないでしょうか。



最後に、「伝説の経営者」と呼ばれたジャック・ウェルチの言葉を添えておきます。「リーダーになる前は、成功とはすべて自分自身の成長を指している。だがリーダーになれば、成功とは他の人の成長を意味する」

トナリの

本棚

【怒り】

数々の作品が映画化されている吉田修一の実験的ミステリーです。夫婦を惨殺し「怒」の一字を書き残して逃走した犯人。その1年後、別々の場所に住む前歴不詳の3人の若い男の話から物語が始まります。ページをめくる手が止まらない一冊です。



船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎